

とることができました。しかし、その試験はたいへんむずかしく、なかなか合格できないほどでした。はげしい仕事につかれたからだをこらえて、伊策は試験の勉強に取り組みました。

明治二十八年（一八九五年）十二月二十八日、二十歳の伊策いさくは、初めて受けた検定試験にみごと合格しました。そのときの受験者は、福島県下で数百人いましたが、合格したのは伊策をはじめとして、わずか六人でした。

伊策は、一つの資格に満足しませんでした。そのころの先生の資格には、いろいろとありました。もつと上の先生の資格のほしかった伊策は、先生として学校につとめてからも、こつこつと勉強をつづけました。明治三十四年までの六年間に、伊策は十一回もの検定試験をうけて、つぎつぎと上級の資格をとっていききました。

伊策が、先生としての資格をとって初めてつとめた学校は、南倉沢なぐらさわというと